

議長定例記者会見（H28.3.23）

（報告）

お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

まず初めに、2月定例会採決結果について報告いたします。

知事提出議案96件のうち平成28年度青森県一般会計予算案を含む議案83件を可決・同意・承認し、報告のみが13件ありました。

議員発議案については、2件が可決となり、1件が否決となりました。

議員派遣については、海外派遣1件が可決されました。

次に、議会運営委員会小委員会からの報告について申し上げます。

昨年6月に、議会運営委員会に対し検討を依頼した「議事運営に関する議会改革検討項目」13件について、3月23日の議会運営委員会において、同委員会小委員会の小桧山委員長から検討結果について報告があり、報告書の内容のとおり承認されました。

小委員会での検討の過程においては、各会派から様々な意見が出され、それを踏まえ検討を重ねた結果、「本会議での一般質問における一問一答方式の導入」及びそれと密接に関係する「質問順の答弁」の2件については、議会運営委員会において、他県の状況等も調査のうえ、今

後継続して検討していくこととなりました。

なお、昨年12月に、追加で検討するよう議会運営委員会に依頼しました、「議会・議員の提案等に対する行政の対応についてのインターネットでの公開」については、引き続き、議会運営委員会小委員会で検討を進めることとしております。

次に、議会改革検討委員会からの報告について申し上げます。

昨年6月に同委員会に対し検討を依頼した「政務活動費の透明性向上」や「議会基本条例検証等」及び「クールビズ等」に係る検討項目について、3月7日、議会改革検討委員会の森内委員長から検討結果に係る報告書の提出がありました。

その報告書の検討結果のうち、「議会基本条例に関する検証及び評価会議の設置」については、条例の検証・評価はいずれ必要となるとしても、現時点では時期尚早であるとし、その他の検討項目については、報告書のとおり取り進めることとしております。

その後、3月11日に各会派代表者会議を開催し、その内容を説明して、各会派の了解をいただいたところであります。

次に、議員定数等検討委員会の設置についてであります。

昨年12月7日の議会改革検討委員会からの中間報告において、「これまでの議員定数・選挙区等の検討の経緯を踏襲して、全会派で組織する協議・調整の場を設置して、検討することが望ましい。」との報告を受けました。

同月9日の各会派代表者会議において、全会派からなる協議・調整の場を2月定例会中を目途に設置することといたしました。

その後、2月26日に国勢調査の速報値が発表されたことを受け、3月11日の各会派代表者会議において、検討組織の名称、目的、委員構成について、各会派の意見を伺い、本日の本会議において協議・調整の場の名称を「議員定数等検討委員会」として設置を提案し、可決したところであります。

次に、東日本大震災対策特別委員会については、本日の本会議において、所期の目的が達成され、解散することと決定した旨の委員長からの報告を受けて、採決の結果、解散することを可決いたしました。

最後に、今週土曜日の3月26日には、北海道新幹線が開業となります。

先日、開催された新幹線・鉄道問題対策特別委員会においては、その詳細が報告されたところであります。

私は、当日の「奥津軽いまべつ駅」での出発式や函館市での開業式に出席する予定となっております。

県議会としましても、今回の開業をチャンスと捉え、開業効果を最大限活かせるよう取り組んでいくことが必要であると考えております。

私からは以上でございます。

(質 問)

○ 記 者

先ほど組織会が開かれた議員定数等検討委員会についてですが、議長として、今後どのような議論をしてほしいのかポイントがあれば伺いたい。

○ 清 水 議 長

ポイントは、やはり飛び地の解消です。

そのほか、以前にも話しましたが、7つの選挙区が一人区ですから、その解消に向けて検討を進めていただきたいと思います。

選挙区を見直すということは、大変な勇気が必要ではありますが、忌憚のない意見を戦わして、いい結果を導いていただきたいと思っています。

○ 記 者

議長からの委嘱に当たり、選挙区の見直しなどに関わる部分があれば、周知のこともあるので、早めの報告を期待したいという話があったと思いますが、議長としてはどのくらいの時期までに報告をいただきたいと思っていますか。

○ 清 水 議 長

周知の期間は、1年ぐらい必要だと考えます。

そのため、遅くとも次の選挙の1年前ぐらいには決める必要があると思います。

○ 記 者

1年程度の周知期間は必要だということでしょうか。

○ 清水 議長

はい。そのとおりです。

○ 記者

今回の定例会で貸し工場の債権放棄についての質疑がいろいろありましたが、議長としてどういった受けとめ方をしていたのか伺いたい。

○ 清水 議長

もう少し抵抗があるのかなと思っていましたが、反対した会派でも、全員が「だめだよ。」という感じではなく、意外と会派内でも温度差があるように感じました。

全員が反対意見を向けてきたら大変だなと思っていましたが、各個人の質問の中身を聞くと意外とそうでもないなという感じを受けました。

○ 記者

債権放棄自体については、議長としてどう思っていますか。

○ 清水 議長

最良の方法であり、これしか選択肢はないと思っています。

○ 記者

県側の説明として、トータルに見て判断したということとを繰り返し答弁していましたが、そういう答弁が多かった分、あまり議論が深まらなかったのかなという印象があったのですが、その辺は、どういうふうに見ていま

したか。

○ 清水議長

かつては、そして今でも与党である私らも、何年前になるのでしょうか、クリスタルバレイ構想というのがあり、そのときに、議員総会長が胸を張ってこれからはクリスタルバレイ構想にのっとなって青森県は頑張らなければだめなのだということを、拳を挙げて主張したのをいまでも鮮明に覚えています。

しかし、産業振興というのは難しいものだなと思いますし、また、あの業界の技術というのは日進月歩なものですから、なかなか思いどおりにはいかないのだなと思いました。

そういう意味では、早いうちに対策を講じていい結果だったのではないのかなと私自身はそう思います。

○ 記者

議会改革の件ですが、今回、検討委員会も立ち上げて、政務活動費のほうはだいぶ透明性が向上したなと思っています。

一方で、議会運営委員会の小委員会で報告のあった「一問一答方式」の実施等については検討を継続するとか、この前の「ヤングフォーラム」の時に県議会議員と大学生が意見交換を行うなどの住民参加を進めていくという部分では、今回の議会改革はそこまで進んでいないというように感じられたのですが、その部分についてどのように考えていますか。

○ 清水 議長

できるところからやっていくという感じですよ。

いろいろなことがまだ暗中模索状態ですが、若い人たちも18歳になって選挙権を持てるんだということで、いろいろな取り組みを一緒にやっていくということが価値のあることではないのかなと思います。

よその国を見ても、18歳で選挙権を得るということは世界の潮流であり、なぜ日本だけが20歳なのだということが言われています。

たとえば私が小学校・中学校の時代は、児童会の選挙とか生徒会の選挙とかを皆経験しているのです。

たぶん、皆さんも同じ経験をしてきていると思いますので、18歳になって選挙をするということは当たり前のことだと思います。

これからは、若い人も政治にどんどん積極的に参加していかなければならないと私自身は思います。

○ 記者

若い人も一般の大人の人にしても、どんどん議会に参加してもらおう取り組みをこれからも続けていくということでしょうか。

○ 清水 議長

そうです。

あと、私だけが感じていることかもしれませんが、一般の県民・市民などは選挙運動イコール政治に参加するというだけしか考えていない人が多いように思います。

選挙は一生懸命やっているのだけれど、選挙が終わってその議員がどれくらい一生懸命議会で活動しているの

かということ、意外に見てくれていないように思います。

私もできるだけ努力はしています。

各議員もこれから市議会や県議会を傍聴してくださいなどと積極的に働きかけていかなければならないと思います。

そして、そのことを積み重ねていくことで県民が政治に対して、興味を持つということになるのではないのかなと思います。

たとえば、青森県議会では定例会時に、傍聴席がいつも満員だということになればいいなと思います。

かつて私が初めて県議会に登壇したときは、ある議員の傍聴のためにバス2台で来たとかいうこともありました。

せっかく来たのであれば、ほかの議員の発言や意見を聞いてから帰ればいいのだけれども、その議員本人のパフォーマンスのためだけに傍聴に来たのであれば、片手落ちではないのかなと思います。

毎回、自分の応援している議員が登壇するときは、ぜひ傍聴しに行こうという運動をするのもいいとは思いますが、そのほかの登壇する議員の分も見て行ってほしいとも思います。

○記者

そういう意味では、今回「ヤングフォーラム」で若い人たちが来ていて、取材したら居眠りしてるとかのかなり厳しい意見などがありました。そういった取り組みを今後も続けていくべきだと思いますか。

○ 清水議長

そう思います。

それは、大事ですね。

○ 記者

議会としてなにか取り組みをしていこうという考えはありますか。

○ 清水議長

これからです。

この間は、県職員の方が一生懸命に頑張って仕掛けをしてきたと思いますので、そこは、行政と議会と相談しながら呼びかけをする

ような体制で取り組んでいきたいと、私自身は思います。

以上です。